

平成28年7月6日

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人 マナーズ
代表者氏名 宅間 邦和



1. 助成プロジェクト名

措置児にもう1部屋（個室）を！

2. 実施団体の概要

現理事長の宅間夫妻が個人的に世間からあぶれた若者（累計12名）を5年ほど、自宅に預かり、共同生活をしてきました。資金的、人的に行き詰まりを感じ、平成23年にNPO法人を立ち上げ、（会員数15名）また25年に現自立援助ホーム「ハレルヤ・ファミリー」の認可を受け、4年目を迎える状態です。現在定員6名、預かり児童5名。他に1名自立準備ホームに1名の子を預かっています。

3. プロジェクトの目的とその背景

ひきこもり、逆に多動性と多様な児童が入居してきます。相部屋が基本の当ホームでは相部屋の組み合わせに苦勞します。また一人部屋を希望する声が多くなりました。問題児が入居すると1、2階に宿直の職員の配置が必要となってきました。現実に昨2月から多動性の児童が入居し、数多くの問題を起こし、2階にも宿直の職員を配置しました。このように今の部屋数では対応が難しくなってきました。

4. プロジェクトの内容

2階の8畳の間を完全に仕切り、一方を職員の宿直室とする。1階にも宿直室があり、この状態で2人が個室となる。1階の特別室は1番長く滞在している（20歳前の子）が入り、自立の訓練の場とする。個室が増え、精神的な落ち着きがでてくると思います。また、宿直の職員との対話が増えると思います。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」「成果」「社会的な変化」などの「効果」

1階の特別室の取り合いになるかと思っていました。個室はリビングの傍にあり、また職員が目光っているため、いたずらっ子はいやがり、いい子が下に来ています。結果5人の内3人が個室となり、子たちは自由を楽しんでいます。特別室の子は早朝の建築現場での仕事のため、すぐ起こすことができ、深夜のゲームも減ってきました。部屋の掃除も自己責任的になり、仕方なくきれいにするようになりました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望

定員満杯になることは数か月なので、大半の子たちに個室を経験させることができる反面、ゲーム好きの子ばかりなので部屋で何をやっているのかわからない。管理上は問題が出てきそうです。でも職員との対話をもっと増やしていくこと

によって、解決できることかもしれません。

7. 参考資料

ホームのチラシ、
できあがった部屋の写真、